



本箱

Books column

本学の先生方が執筆された新刊情報。
授業の中だけでは見られない
先生の違った一面に触れることができます。

木本 玲一(言語文化学科非常勤講師)著

『**拳の近代**
— 明治・大正・昭和のボクシング —』

現代書館 2018年11月 2600円



「ボクシングを日本で始めた人物は誰か?」を追う中で、一人の人物に注目。明治・大正・昭和のボクシング史を通して、知られざる日本近代の側面を明らかにする読み物としてとびきり面白い一冊。

神馬 幸一(法律学科教授)分担執筆

『**医事法辞典**』

信山社 2018年10月 6200円



信頼の執筆陣125名の総力を結集した、厳選820項目からなる日本初の『医事法辞典』。医事法に関連する用語を幅広く収集し、医療現場、医科学研究、法実務、医事法学研究・教育に必須の中型辞典。

北野 収(交流文化学科教授)分担執筆

『**国際開発学事典**』

丸善出版 2018年11月 20000円



火種にならない国際支援、人的支援を含む効果的な援助とは何か。現地とどのように合意形成を行うか。諸分野にまたがる国際開発学を写真や図を交えながらそれぞれの専門家が解説。国際開発学の全貌を概観できる事典です。

石井 保雄(法律学科教授)著

『**わが国労働法学の史的展開**』

信山社 2018年11月 13400円



大正デモクラシー期の労働法学の草創期から十五年戦争、そして終戦に至るまで、重要な労働法学者に焦点をあて、それぞれの理論的な営為を精緻に考察しています。日本労働法学が辿った過程を追跡、その学問的意義を明らかにします。

矢羽々 崇(ドイツ語学科教授)著

『**第九 祝祭と追悼のドイツ20世紀史**』

現代書館 2018年12月 2300円

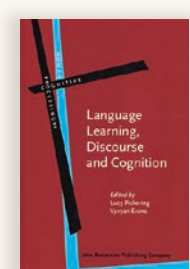


世界中で愛されるクラシックの名曲、ベートーヴェンの「第九」が日本ではじめて演奏されてから100年。新たな視点で「第九」と現代ドイツ精神史の関係を明らかにし、その生命力に迫ります。

辻田 麻里(経済学科非常勤講師)分担執筆

『**Language Learning, Discourse and Cognition**』

John Benjamins Publishing Company
2018年12月 €95 US\$143



認知言語学、談話分析、第二言語習得研究の接点から生まれた理論的および実証的研究をまとめた一冊。言語学や言語教育の研究者と大学院生を対象とした書です。

■ 獨協大学ニュース「本箱」欄に掲載する新刊情報をお寄せください。

本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊情報を募集しています。
新刊がありましたら、中央棟2階総合企画課までご持参ください。表紙撮影後、返却いたします。